

CONTENTS

広報

ななほ

2011 No.76

1

● 目次

- 2 ひと人ヒト (七尾市成人式実行委員会)
- 3 武元市長 新年のあいさつ
- 4 情報ランド (お知らせ)
- 8 平成 22 年度 12 月補正予算のあらまし
- 9 広がれ!市民の和
- 10 みんなの本棚/児童館へ行こう
- 11 イベント情報
- 12 市民相談
- 13 休日医療情報/不用品活用銀行
- 14 まちの顔
- 16 能登かき祭/わが家のアイドル

今月の表紙

太鼓は楽器の中でもっとも古い楽器の一つといわれている。昔から、敵や動物を威嚇したり呪術や祭祀に用いられ、さまざまな場面で用いられてきた。

現代社会では、初詣に行ったときに神社で目にしたり、祭りでも目にしたりする。神秘性、神聖性を象徴する楽器として、宗教的なものに多く用いられてきた。また、音で災いを追い払うともいわれ、無病息災、家内安全、商売繁盛といった新年に願う代表的な願い事を叶える役目もしている。

新しい年を迎え、皆さんどのような年にしたいと思っているのでしょうか。表紙のように、目標に向かって進む姿勢で、良い年にしたいものです。

ひと

ヒト

平成23年1月9日(日) 七尾市成人式

テーマ 今日この日を新たな出発とし、私たちが色の虹をかけよう。

Rainbow road

七尾市成人式実行委員会



宮崎委員長



「ふるさと愛があるから成人式には帰ってくるし、実行委員会にも自分から参加しようと思った」。新七尾市として合同の成人式が行われてから初の女性委員長、宮崎美晴さん(矢田町出身)はふるさとへの想いを語る。宮崎さん自身も金沢に在住し、仕事が終わってから実行委員会のメンバーの元へと車を走らせる。

今年のテーマは「Rainbow road」(レインボーロード)。「虹は色では虹にはならず、いろいろな色があるから虹になる。これまで支えてくれた人たちに感謝し、その想いを胸に、今日この日を新たな出発とし、私たちが色の虹をかけよう」という想いが込められている。

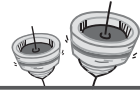
記念行事で行われる創作踊りに使う曲は、今話題のアイドルグループ AKB48の『会いたかった』。選んだ理由を尋ねると「成人式は、友達

や家族や恩師に会えるチャンス。市外へ出ている人が多いので、みんなに会いたかったという喜びを表現したい。もちろん『はやり』ということもありますね」と笑顔で答えてくれた。

他にも『ありがとう』『おめでとう』の手紙、西湊鬼楽太鼓の友情出演、そして、中学校時代の恩師が登場する企画も用意されている。

「イメージだけで『最近の若者は』とは言われたくない。若くてもできることはたくさんあるし、自分たちの力を頼ってほしい。自分たちが七尾を盛り上げたい」と宮崎さんは語気を強める。式典だけではない、新成人による手づくりの成人式。ふるさとへの想い、会いたかった人への想いがいっぱい詰まった成人式がもうすぐはじまる。

協働のまちづくりは「人づくり」 市民の参画・提案で元気な七尾を



新年のあいさつ

平成22年を振り返って―

昨年はふるさと七尾が生んだ画聖長谷川等伯の没後400年の年でした。東京と京都の国立博物館で長谷川等伯展が開催され、両会場には53万4千人余りが訪れました。これを地元でどう生かしていくのが課題であり、「等伯に学び、等伯に続く」と、さまざまな取り組みを行いました。

今年の取り組みは―

今年には「元気な七尾」にしていきたいと思います。経済の活性化が一番大事であり、和倉温泉や能登島などの観光地が元気にならないと地域全体も元気になりません。また、農林水産業など七尾の産業が元気になる仕掛けづくりを行います。

大きな課題は、能越自動車道を一日も早く供用させることです。七尾区間を平成24年度に開通させ、北陸新幹線が平成26年に金沢まで開業した時に、北陸新幹線と能越自動車道をつないで七尾や能登へ関東圏から多くの人を呼び込めるような環境づくりを進めます。

昨年完成した和倉温泉多目的グラウンドは、サッカー合宿やいろいろな行事に使われており、併せて七尾湾を生かしたマリンスポーツができるように、能登島のボートやイルカ

ウォッチングなどを生かし、ジンベエザメ館がオープンした能登島水族館も活用しながら魅力ある七尾を発信します。

仕掛けづくりには人材が必要なので、今年には「人」を育てていきたいと思っています。

具体的な人づくりとは―

まずは学校教育。生徒数が減っていく中で、より良い教育環境づくりのために学校を適正規模で適正配置していく計画です。香島中学校と能登島中学校の統合に向けて、香島中学校に体育館やテニスコートを作ります。生徒数が減る田鶴浜と中島も、平成25〜26年頃の統合を目途に力を入れます。地域の方の理解や子どもたちの教育環境を第一に考えながら、どんなまちをつくり、どんな人を育てていくのかを考えていきます。

協働のまちづくりのために―

人づくりには、市民一人ひとりが自分たちのまちをいいまちにしようという意識が一番大切です。その思いを子どもたちに背中で見せられるような市民にならなければなりません。

昨年11月に「まちづくり基本条例」を作ろうと市民会議（メンバー40人）が立ち上がりました。協働のまちづくりを進めるための理念・ルール・

New Year's Message

七尾市長

武元 文平

Takemoto Bunpei

〘卯年の決意〙

仕組みづくりをし、市民の役割、市役所の役割、事業所の役割を条例化します。市民の皆さんなどの意見を聞きながら、手づくりで作り上げ、平成24年から条例に基づいたまちづくりを進めていきたいと思っています。

市民が主役でなければ市民が納得できる市にはなりません。お互いが力を出し合い、どうすれば自分たちが望むようなまちになるのかを考え、そんな人たちを増やしなが、自分たちのまちを自分たちで作っていく。そのための「まちづくり基本条例」をつくりま。

市民の皆さんへ―

今年には「まちづくり基本条例」づくりに力を入れます。七尾にもっと磨きをかけて、市民が誇りに思い、七尾に住んで良かった、七尾のために、子どものためにがんばっていかうと生きがいを持って生活できるようになれば、一人ひとりが幸せになつていけると思います。市民の皆さんが幸せになるためのお手伝いをするのが市役所の仕事です。皆さん一人ひとりがまちづくりに参画し提案しながら、ともに幸せなまちづくりをしましょう。市民が、七尾が元気になるようにとがんばりましょう。

